

1 研究主題

言語に関する関心・理解を深める授業 (3年次)
～「伝統的な言語文化」の指導法を中心に～

2 研究の概要

(1) 研究の方針

- ア 会員相互の実力を高めるために主体的に取り組むものであること。
- イ 焦点を絞った、毎日の国語教室に生きる研究であること。
- ウ 会員相互が連帯感をもって取り組み、一部の人の研究にならないようにすること。

(2) 取組の内容 (期日 11月19日(火) 会場 中之島中央小学校)

- ア 示範授業 授業者 東京家政大学教授 大越和孝先生「ことばの始まり」
- イ 全体協議会
- ウ グループ協議
- エ 大越先生講演

3 研究の実際

(1) 示範授業

大越先生は5年生に対して、「言葉遊びを通して、言葉の歴史を知り、言葉に興味や関心をもつことができるようにする。」というねらいを設定し、4×4の表の16文字から、体の一部を示す言葉を作らせた。

「まぶた、まなこ、まゆげ」などの言葉から、「目」を昔は「ま」と言っていたことを理解させる授業であった。

子ども達は、ゲームに取り組むように夢中になって言葉を作り、目の前の方向を「まえ」ということや「マグロ」の意味を理解した。研究主題に迫る授業を公開していただいた。



(2) 協議会

示範授業をもとに、全体で協議したり、少人数で協議したりした。ゲーム感覚で取り混ぜるよさや辞書の有効な使用について、各自の実践を交えた情報交換がなされた。

(3) 大越先生の講演

「伝統的な言語文化の授業をするにあたって」という演題で御講演をいただいた。目を「ま」、手を「た」という言い方をしていた事例や学習指導要領解説の内容、今後の方向等、示唆に富んだお話をいただいた。



4 成果と課題

4×4の表に使う16文字の選び方や、「い」を入れると形容詞の学習ができるという大越教授のお話から、普段の授業におけるねらいの設定と、その達成のために教材を工夫することの重要性を再認識できた。この成果を各自の授業に生かしたい。